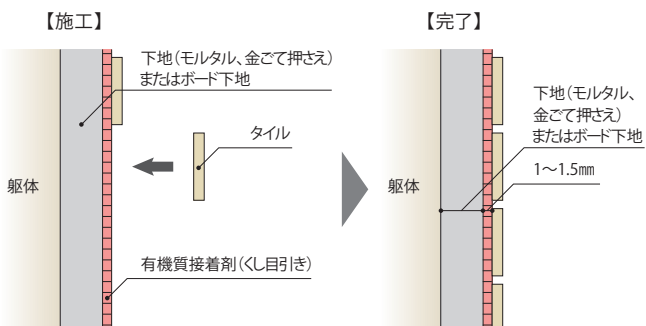


内装壁への施工

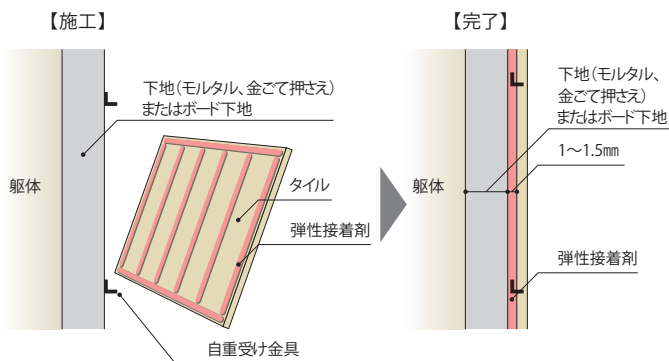
●全面接着剤貼り

裏足高さが2.0mm未満のタイルの施工に適しています。下地に接着剤をくし目ごとで塗り付け、タイルをもみ込むようにして貼り付けます。くし目の高さや接着剤の押さえは、タイルの種類で調整します。



●部分接着剤貼り

主に300mm角以上の大判タイルの施工に適しています。接着剤は、コーキングガンで塗布できる弾性接着剤を使用します。接着剤をタイル裏面の周辺部とその内側に150mm以下のピッチでビード状に塗布し、下地にもみ込むように貼り付けます。タイルの大きさによっては、自重受け金具を併用します。



●タイル貼り適用下地

[内装壁]

石膏ボード(GB-R) プラスターボード 強化石膏ボード(GB-F) シーリング石膏ボード(GB-S)	推奨は、厚さ9.5mm以上です。石膏の芯材をボード用原紙で挟んでいるため、湿気の多い部位や重量物を貼るには不適切です。ガラス繊維を加えた強化ボード(GB-F)、防水処理を加えたシーリングボード(GB-S)など用途に応じて選定ください。取付け下地間隔に注意が必要です。
珪酸カルシウム板	推奨は、比重1.0以上で厚さ6.0mm以上の2枚貼りです。タイルは最大300mm角以下とし、1枚あたりの重量は2.2kg以下です。取付け下地間隔や表層の粉を取り除くなど注意が必要です。
合板下地	推奨は、JAS I類合板で厚さ9.5mm以上(20kg/m ² を超える重量物を貼る場合は12mm以上)です。

【表紙貼り品】糊残しによる目地汚れ等を防止するために

表紙貼りタイプの外装タイルやモザイクタイルは、紙貼りに使用している糊をタイル表面に残したままにしておくと、その後目地を詰めたり酸洗いをしても、目地汚れや糊残りによる汚れの付着等、問題が生じる場合があります。

このような事態を未然に防止するために、右記要領での糊の除去及び目地洗いを行っていただくことをお願いいたします。

糊の除去

特に、意匠性の高い表面に凹凸のあるタイルは、紙貼りの接着強度を上げるために糊の量が多い場合があります。また、フラット面のタイルにおきましても、必ず糊は残るため下記の要領に従って糊の除去を行ってください。

▶タイル施工後、紙をはがす際は紙に十分な水分を含ませてください。噴霧器を使用する場合は、水を含ませたのち、再度紙をはがす直前に噴霧することをお勧めいたします。水を含ませたあとは3分ほど放置してから紙をはがしを行ってください。その際、決してタイル表面に紙と糊が残るような状態で紙をはがしは行わないでください。

▶目地詰め前にタイル表面の糊を洗い落としてください。その際、水を十分に糊に含ませて柔らかくなったことを確認し、「たわし」「メラミンスポンジ」などを使用し、タイル表面のぬめりがなくなるまで洗い落としてください。